

いつまでも続いた今年の暑さ、そして突然のように秋。身体が悲鳴をあげてしまいそうですが、皆様、皆様の動物家族はお元氣にお過ごしでしょうか？ 今年も例年にもまして胃腸障害・皮膚疾患に罹る子が目立ちました。長引いた暑さで身体がかなりのダメージを受けたということでしょう。体調を整えて寒さに備えて下さい。

平成24年10月29日



お知らせ



秋の健康診断実施中です

検査センターキャンペーン期間につき通常より安い料金で血液検査が受けられます。特に春の健康診断で気になる点があった子、検査をする機会の少ない猫ちゃんは受診をお勧めいたします。

年末年始の診療時間につきましては11月半ば頃に新着情報の方よりお知らせさせていただきます。

年末のトリミングはお早めのご予約をお待ちしております。

■ 寒さについてのお話 ■

また今年も寒い季節がやって来ます。この“寒い！”ということについてのお話です。

人間や犬猫は食物を摂取しそれを燃焼させエネルギーを発生させる発熱体です。常に身体から熱を出しているわけです。身体のなかで一番熱を作っているのは筋肉ですが、筋肉で発生した熱は血流によって全身から心臓に運ばれます。そして心臓から温かい血液が全身に送られ皮膚に向かいます。皮膚は空気と接しているため最も熱が逃げやすいところです。ほとんどの場合、身体をとりまく空気の温度は体温より低いいため、身体の熱は外に放出され体温は一定に保たれます。

空気の温度が下がると身体の熱が大量に放出され、体温が下がり、代謝も落ちてしまいます。さあ大変、ワンニャンはすぐに身体から熱を逃がさないようなシステムが作動します。毛に付着している立毛筋という筋肉が毛を立てます。すると皮膚に接する空気の量が増えます。この空気は循環しませんから、皮膚で暖められた温かい空気が断熱層を作り放熱を抑えます。ちなみに人間にも立毛筋はあり、寒いと収縮し毛穴をぎゅっと締め上げます。この状態が“鳥肌”だそうです。ただし、毛穴からの熱の放散はある程度抑えられるものの、肝心の毛がないため放熱防止にはほとんど効果がありません。その代わりに人間は交感神経の働きにより血管を引き締め、血流を少なくし放熱を抑える仕組みがとても発達しているそうです。

さらに寒さがつると筋肉の震えが起こります(寒くてブルブル状態です)。震え(筋肉の動き)によって熱を発生させるのです。通常、筋肉の動きは自分の意思でコントロールできますが、震えは意思と関係なく始まり、自分で止めることは出来ません。(— 以上、札幌医科大学の當瀬規嗣先生の記事を参考にさせていただきました)

寒いと身体を縮めますが、これも身体の表面積を小さくし放熱を抑えるためです。ワンニャンが真ん丸くなって寝ている姿をみかけますが、これは放熱を抑えることに加え、自分の呼気、体温によって温まる効果もあるようです。

また、犬や猫には上毛(オーバーコート)の他に一部の種類を除いて下毛(アンダーコート)があります。下毛は人間にはないもので、細く柔らかく皮膚に密着して生えているため保温の役割を果たします。

現代ワンコの場合



先にお話したように、本来、犬は暖房器具や洋服のない屋外でも過ごせるように身体が自衛手段を持っているはずなのですが…品種改良、生活環境の変化で、祖先のように寒さに対抗できなくなっているのが現実と見えます。また、真冬でも裸？で喜んで散歩に行くことを思えば、かなり温度が低くとも生活できるはずなのですが、飼い主としては愛犬愛猫が寒そうにしている姿を見るにしのびないですね。ではいったい我が子の寒い時期の生活環境はどうしたらよいのでしょうか。いくつか注意点をお話したいと思います。

- ・室温20℃前後、湿度40～60%なら快適に過ごせると言われています。
- ・適温は種類、年齢、健康状態によって異なりますし、人間とおなじように個体差もあります。愛犬愛猫の様子をよく観察して下さい。震えていたり、ずっと丸まっていたら寒いと感じています。
- ・人間が適当と感じていても、ワンのいる床はどうでしょう？ ワンのいる場所の暖かさを確認して下さい。
- ・ワンはより暖かいところが好きです。ほっておくとストーブの前にかじりついていたり、こたつにもぐりこんでいたり…いずれも事故の起こる危険があります。人の目の届かない時は禁止です！
- ・温度差に注意して下さい。暖房を消した夜間、明け方の冷え込み対策を怠りませんように。
- ・よほど寒い日でなければ特に暖房器具をつける必要はないと思います。
箱型のハウス、もしくはベッドをいれたケージ(なければ大き目の段ボール箱に百円均一ショップのシートなどを貼って見栄えよくしたのも)を毛布などで覆います。床が冷たいようなら発泡スチロールをひくのもお勧めです。とても寒い日や、夜間対策として市販の湯たんぽやペットボトルにお湯を入れてタオルなどでくるんだものを入れてあげたら良いと思います。
- ・室内で防寒対策としての洋服は必要ありません。散歩のときも基本的には不要ですが、チワワなど寒さに弱い犬種が寒そうにしていたら着せてあげて下さい。(洋服は防寒以外にも抜け毛対策等の効果があります。可愛いし…)
- ・病気で体力の落ちている子、幼齢老齢の子は体温調節がうまく出来ません。健常な子より暖かい環境が必要です。



さてニャンコですが…“猫は炬燵で丸くなる”この言葉通り、ワンコより暑さに強く寒さに弱い動物です。野良猫さんを思えば、一桁の気温でも耐えうるはずですが、寒いのはイヤだあ！と言っていることでしょう。

■ ペット保険 ■

愛犬家・愛猫家の間で定着してきた感のあるペット保険です。ご加入を検討していらっしゃる方も多いかと思います。現在、損害保険会社としての認可をとっているところが3社、少額短期保険業者で名前の知られたところが6社、その他多くのペット保険会社あるようです。その中でどこを選ぶか？ よく「どこが良いですか」というご質問をいただきますが…何ともお答えできないのです。せめて少しでもご参考になるようなお話を少々。

この記事を書くにあたり改めてインターネットでペット保険について調べてみました。どこの保険もデメリットがあるようです。以下に例をあげてみました。

- ・もっとも加入者の多いanicomさんの場合。

通院1日の限度額が1万円です。動物高度医療センターや大学病院を受診すると1回の診療費が10万円近くなることもまれではありません。大半は自己負担ということになってしまいます。

- ・老舗保険会社のアクサダイレクトさんの場合

保険期間が切れる直前に発し更新時に治療継続中であってもその疾病については更新後は支払い対象外となるためほとんど保険が使えなかった、との加入者さんのコメントがありました。

気になりましたので実際にアクサダイレクトさんに電話で問い合わせしてみました。

例えば罹患する子が多い膿皮症で通院し保険を使った場合、更新後は皮膚に関する疾患すべてが保険対象外になることがあるそうです。対象外となる子の割合は低いそうですが、対象外となる基準については一切公表していませんとのこと教えていただけませんでした。

その他、支払いに関する件などなど…トラブルがあるようです。

保険加入を検討するときにまず考えなければいけないのは「何のために保険にはいるのか」ということです。火災保険と同じように万一の備えですか？ ただ何となく保険に入っていれば安心と思われるからですか？

ワンニャンが一生のうちでよく罹る病気(胃腸障害・外耳炎・皮膚炎 etc)にごく平均的な回数罹ったとすると治療費より保険料の方が高額になります。実際にご来院の保険加入の皆様の中かで支払った保険料以上に保険の給付を受けた方はごく少数です。逆に保険に加入されていてよかったと思うのは、大学病院、高度医療センターで診療を受けた場合、高額な薬が

必要となる慢性疾患を発症した場合、骨折、誤食などで急な手術が必要となった場合です。

また注意しなければならないのは、どんな条件の良い保険でも会社が潰れてしまっただけでは元も子もありませんから、経営に信頼の置ける会社を選ぶことです。

我が子の年齢、健康状態などからどんな場合に保険を使いたいのかを考え、各社の条件をよく比較した上で選ばれるのが良いと思います。最低でも9社のパンフレットを取り寄せ、またはネットで調べ検討するのはかなり面倒な作業ですが、せっかく保険料を支払いながらいざという時に役に立たなくては困ります。

* 今回参考にした情報の中で以下のサイトが代表的な保険会社のメリット・デメリットが掲載されていました。

ペット保険 クチコミランキング http://kuchiran.jp/money/ins_pet.html

時間外のご連絡に関して 当院では診療時間外にお電話をいただくと、通常は録音で院長の所持する携帯電話の番号をお知らせしております。携帯に出られないこともあります。留守番電話にメッセージを吹き込んでいただければ折り返しお電話をいたします。(非通知設定の電話からですと、こちらからはご連絡できませんのでご注意ください) お電話で伺った状態により、ご自宅で様子を見る、ご来院、夜間緊急病院で受診、のいずれかの方法をとっていただくようになります。極力ご連絡がつくようにはしておりますが、万一、30分以内にこちらからの電話がない場合は、夜間緊急病院や他の病院にご連絡なさってください。(ごめんなさい、たまには院長も飲んでいただいていることがあります・・・)

我が子写真のこと 我が子の写真撮影に興味がおありですか？ プロのカメラマンが我が子を撮影してくれる会社があります。参加者が集まれば当院での撮影会もOKとのことです。個人より低料金でお願いできるようです。詳しくはスタッフにお尋ね下さい。

わんにゃんスターフォト <http://wannyan-photo.com/index.html>

私事で恐縮ですがこちらの代表で写真家の村田様とご縁がありまして、うちの猫達がスマホゲームに登場することになりました。「にゃんコレ」というゲームで10月末に発売とのことです。機会がありましたら見てやって下さい。

編集後記



さて何匹でしょう？ **正解は7**

つい最近まで暑いと文句を言っていたのに、気付くと寒いという言葉に口にしてこの頃です。我が家の冬の風物詩“猫団子”ができるのも間近です。寒さが大の苦手の私は猫と一緒に冬眠してしまいたいと毎年思っております。かの清少納言さんは「冬はつとめて」と冬の早朝を愛でていらっしゃいますね。たしかに冬の朝の凜とした空気は他の季節にはない素敵なものですが、やはり暖かい布団の中の方が・・・皆様はいかがでしょう？

冬を愛する方も、そうでない方もお元気に過ごされますように願っております。



まるつか動物病院